



2024年5月29日

第4回 「統計エキスパート人材育成コンソーシアム」総会 結果概要

【日 時】 2024年5月28日（火） 10:00～11:05

【場 所】 オンライン会議（ZOOMミーティング）

【参加者】 会 員： 中核機関、参画機関、協力機関及び特別会員（別紙の57名）
来 賓： 文部科学省 研究振興局 参事官（情報担当）付 学術基盤整備室 土井室長
ほか（別紙の4名）

【概 要】

○ 開会挨拶

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所 椿広計 所長より、コンソーシアム活動に対する関係者への謝辞とともに、今後の本プロジェクトが目指す方向性等について、以下の挨拶があった。

- ・ 第1期修了生の参画機関における活躍などの本プロジェクトの活動が、文部科学省による中間評価において高い評価を得たことは、研修参加者と所属参画機関のご協力の賜物と感謝。
- ・ 第1期修了生からは、この研修が厳しいものであった半面、有意義であるためレベルは維持する必要があるとの声も聴いている。高く評価された研修の質を維持しつつ、第2期・第3期の研修を進め、統計やデータサイエンスを基盤とする今後の諸学術の発展に貢献して参りたい。
- ・ 大学統計教員育成研修については、当初は5年間に3期の実施を予定していたが、中核機関及びコンソーシアム運営委員会での検討の結果、この灯を消すことなく、第4期の研修を実施する方針を決定。後継プロジェクトの実現に向けて、文部科学省のご指導・ご支援に加え、会員機関のご協力をお願いしたい。

○ 来賓挨拶

文部科学省 研究振興局 参事官（情報担当）付 学術基盤整備室 土井 大輔 室長より、以下の来賓挨拶があった。

- ・ 近年の社会のデジタル化の進展と世界的なオープンサイエンスの潮流の中で、本年2月、「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」が決定。この中で、2025年度から新たに公募する科研費等の競争型研究について、論文とともにその根拠データの即時オープンアクセスが義務付けられ、データ駆動型研究が一層進展すると想定。そのような中で、大量かつ複雑なデータを分析・解析する統計人材の育成の重要性が、今後益々高まるものと考えている。
- ・ 本プロジェクトは、このような専門人材が我が国において不足している現状を踏まえ、統計数理研究所を中核機関とするコンソーシアムにより、令和3年度から推進しているもの。
- ・ 本プロジェクトの大学統計教員育成研修は、昨年9月に第1期研修が終了し、本年4月からは、昨年度開講した第2期研修と並行して第3期研修も開始。「3期で30名以上」という研修参加者の当初目標値を大きく超える大学統計教員の育成が本格化。この点については、

メンターの先生方の多大な努力に感謝。また、参画機関数も21機関から29機関に増加するなど、コンソーシアムの活動も多く多くの大学に拡大しているものと承知。

- ・ 第1期修了者の12名の若手研究者の皆様には、所属する参画機関において講義を開始されるなど、自身の教育・研究活動を進め各大学等で活躍されているものと承知。
- ・ 各参画機関においても、統計エキスパート育成システムの構築・推進に向け、講義内容の見直しや、教材作成、シンポジウムの開催など、様々な取組を積極的に進めているほか、研修参加者が研修に集中できるよう、専用居室や機器、サポート人材の確保などの取組を進めていると聞いている。
- ・ このような積極的かつ丁寧な取組の積み重ねが、日本統計学会活動賞の受賞にも繋がったものと、コンソーシアム関係者の尽力に感謝。
- ・ このようなコンソーシアムの活動成果を基に、昨年度実施された中間評価においては、「総合評価S」という高い評価を得た。本事業を通じて各機関等において持続的・発展的な人材育成の体制が構築されることを期待。
- ・ 文部科学省としても、中間評価の結果を踏まえ、引き続き、本取組への支援を行って参りたい。

○ 議 事

- ・ 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所 橋広計 所長の議事進行により、以下の議題について審議した結果、会員からの異議や修正意見等は示されなかった。また、参画機関の取組状況について情報共有を行った。
 1. コンソーシアムの令和5年度（2023年度）活動報告について
 2. コンソーシアムの令和6年度（2024年度）事業計画について
 3. 第4期大学統計教員育成研修の募集について
 4. 特別会員の所属機関の変更、当面の運営委員会の体制について
- ・ この審議結果を受けて、「令和5年度（2023年度）成果報告書」の作成を進め、文部科学省に提出するとともに、令和6年度（2024年度）事業計画に沿って、第2期研修・第3期研修の実施と第4期研修の準備、研修修了者に対する支援など、コンソーシアムの活動を進めることとなった。また、コンソーシアム規約の改正と運営委員会体制の一部変更について、情報共有が行われた。

(以 上)

※文責：コンソーシアム事務局

別紙

統計エキスパート人材育成コンソーシアム 第4回総会 参加者一覧

令和6年5月28日

【参画機関・特別会員】

茨城大学	大学院農学研究科・農学部	准教授	庄山 紀久子
大阪大学	大学院基礎工学研究科	教授	鈴木 讓
岡山大学	学術研究院 環境生命自然科学 学域学務企画課	教授	大下 洋一
九州大学	マス・フォア・インダストリ 研究所	所長	梶原 健司
京都女子大学	データサイエンス学部	学部長・研究所長	栗原 考次
	学術研究支援部研究企画課	課長	林 雅純
	〃	課員	宗像 美香
京都大学	データ科学イノベーション教 育研究センター	教授	林 和則
	〃	特定職員	寺川 雅
群馬大学	数理データ科学教育研究セン ター	センター長	青木 悠樹
	情報学部	副学長・教授	杉山 学
	食健康科学教育研究センター	准教授	長井 万恵
滋賀大学	大学院データサイエンス研究 科	教授	椎名 洋
	大学院データサイエンス研究 科	准教授	松島 裕康
順天堂大学	大学院医学研究科医科学専攻 医科学コースデータサイエン ス学位プログラム	データサイエンス学位 プログラム長・教授	青木 茂樹
	教務課大学院担当	課員	矢野目 大地

順天堂大学	教務課大学院担当	課員	浦 美由紀
上智大学	大学院応用データサイエンス 学位プログラム	学位プログラム委員長 補佐	大原 佳子
	〃	准教授	深澤 佑介
	〃 事務室		北村 紘一
中央大学	AI・データサイエンスセン ター	事務長	石倉 孝一
	〃		(接続者不明)
データサイエンス共同 利用基盤施設	社会データ構造化センター	センター長	前田 忠彦
東京理科大学	データサイエンスセンター	センター長	矢部 博
	〃	副センター長	瀬尾 隆
	〃	副センター長	村田 貴司
	〃	講師	趙 宇
	〃	専門員	犬伏 真理子
同志社大学	大学院文化情報学研究科	教授	宿久 洋
長崎大学	情報データ科学部	助教	加葉田 雄太郎
	〃	助教	姜 佳明
名古屋市立大学	大学院看護学研究科	教授	樋口 倫代
	〃 事務室	学務第2係長	毛利 周作
一橋大学	ソーシャル・データサイエン ス研究科	教授	七丈 直弘
	ソーシャル・データサイエン ス研究科事務室	事務長	岡田 大介

兵庫県立大学	情報科学研究科・社会情報科学部	副学部長・教授	笹嶋 宗彦
広島大学	高等教育研究開発センター	センター長	小林 信一
北海道大学	大学院経済学研究院	教授	高木 真吾
立正大学	データサイエンス学部	学部長	北村 行伸
	〃	教授	西崎 文平
早稲田大学	データ科学センター	所長	松嶋 敏泰
	〃	教授	野村 亮

※ 慶應義塾大学、国立極地研究所、総合研究大学院大学、東京医科歯科大学、東京大学及び名古屋大学については、学事等の関係により欠席。

【協力機関】

※ 東京学芸大学、広島大学及び統計質保証推進協会は、学事等の関係により欠席

【中核機関】

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構	統計数理研究所		所長	椿 広計
	〃		副所長	山下 智志
	〃		副所長	川崎 能典
	統計数理研究所 成センター	大学統計教員育 成センター	センター長	千野 雅人
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構	統計数理研究所 成センター	大学統計教員育 成センター	統括部長	澤村 保則
	統計数理研究所 成センター	大学統計教員育 成センター	研修部長・研修 主幹・シニア教 員・特任教授	中西 寛子
	〃		教育システム開 発主幹・シニア 教員・特任教授	水田 正弘
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構	統計数理研究所 成センター	大学統計教員育 成センター	シニア教員・特 任教授	岩崎 学

”	シニア教員・特 任教授	清水 邦夫
”	シニア教員・特 任教授	神保 雅一
”	シニア教員・特 任教授	三輪 哲久
”	研修部・特任教 授	神谷 直樹
統計数理研究所管理部総務企画課	副課長	橋本 渉
統計数理研究所 大学統計教員育 成センター統括部	技術補佐員	市原 順子
”	”	荒木 美千代

【会員以外の参加者】

文部科学省研究振興局参
事官（情報担当）付

学術基盤整備室

室長	土井 大輔
”	参事官補佐 吉田 雄介
”	係長 西村 佳高
”	係員 村上 史歩